

I. 2019年度 事業報告

2019年度は、通信制で学ぶ高校生を対象に、学業優秀、品行方正、且つ勉学意欲旺盛でありながら経済的な理由により修学が困難な者に対し、奨学援助を実施するとともに、奨学生に対しては、必要な指導・相談を実施した。

また、年1回の機関誌「阿部育英基金だより」を引き続き発行した。

2019年度の新規採用奨学生については、2019年12月4日開催の選考委員会で、応募者59名（内訳 男性19名、女性40名）の学業成績および経済状況等を勘案し、当初の計画通り25名（内訳 男性6名、女性19名）の採用を決定した。

奨学給付金については、新規採用者を含め72名に総額714万円の給付を実施した。

事業運営にあたっては、基本財産の運用収入確保および効率的な事業運営に努めた。奨学資金積立基金については、当初の計画通り一般正味財産に対応する基本財産と流動資産から1,600万円を繰り入れ、総額1,900万円としたが、600万円を取り崩す為、繰り越し額は1,300万円となった。この結果、次期繰越収支差額は141万4千円となった。

なお、長期化する低金利下で安定的な財源を確保するため、2019年度に初めて元本保証ではない運用を開始した。これにより、当初予定していた運用収入をほぼ確保することができた。

2020年度は機関誌「阿部育英基金だより」の印刷を行わず、ホームページ上で公開するなど更なる経費削減を図っていきたい。